

短歌

選 長山不美男

入選

題「座り込み」

宮浦 前田義則

道影抱く主婦あり老人あり子供あり舞送テモの怒りを放つ
灯りたるビニール小屋にひしめて怒りの膝を抱く遺族連
柵内にホースがまえる取柄を腹み腕組みて日が暮るのなり
坐りこむ小屋にオルグは「寄せ書」を拵け短歌決意を述べし

三川 中尾種夫

枕木を燃やす煙の眼にしみてビケ張る夜の雨は冷たし
風の位置変われば炎火照みいしビケ隊の列向きを替えたり
坑外の喧に替わりてかきこえなき鉄輪の傷かへたり
吹けば飛ぶ力と知れど終りまで燃焼したい老の抵抗
襖垣背にぐるぐる座り込みは妻は行くらばにむせび

宮浦 平田光男

霜の朝寒さ差す寒さに手を乗せてメタルの重し入半近く
兄の服の袖も着ていた弟が今日は新しい服を着て行く
酷寒に耐えて育つすだれ梅の香の凛々冬の我が家

労働生活者の表現の意味

白の母の泣くとき血涙の
身置置かねばならぬと考えたの
であらう。そして、このこと
が、このようにひびく道である
かを知ることができた。い
かなる困難であらうとも、この
ことを創作を創進するか否
か、今日の短歌の一番の問題
として山田氏の如く「戦争責任者
の重大な責任、戦後の生き方
田氏は戦後の後書に「以下省
略」

山田あき氏の言葉を私に

「この十八年の期間は、ま
とてこの時代の共同的多難
言葉の意味を通じて、労働者
の作歌の重大さを考えてみた
はびく揺れやまの時代であ
りました。このように歴史と社
会関係のなかでの個人の生き方
もまた、緊張そのものの連続で

に短歌は労働生活者のもつとも
前衛的な武器であると言いつつ
であります。私は戦後の大半田
の歴史のなかで生活して来まし
たが、幸ひ多くの労働者を友人
にもつて居る。大半田の
労働者の負う傷みを自分の肌
に感じています。その大半田の傷
みをかかなくては、広島の沖繩
のベトナムの傷みを強く実感で
きて居ると言つては幸せと言
つてよいか知れませぬ。

短歌は労働生活者の前衛的武
器であると書きましたが、若し
短歌が私たちのための文学であ
り、趣味であるとしたら、あえ
て私達は短歌を自己表現として
えらぶ必要はないのではあるま
いかと思ひます。かつて石川啄
木は文学者としては偉大な功績
をわれわれに残してくれました
が、生活者としては失格者であ
ったと思ひます。まず私達は文
学者としての栄光より、労働生
活者としての重大性を考えた
と思ひます。短歌を趣味として
もてあそぶほど馬鹿でいいもの
はありませぬ。趣味なむもつと
面白く興味がいづらぬもので
面白く興味がいづらぬもので
面白く興味がいづらぬもので

短歌は文学と趣味である以前
に「生活者の心情」であること
を私はこの強く言つておきた
と思ひます。山田あき氏は文
学である前に短歌表現の必然性
を言つて居ますが、今日短歌作
者が五万と居るのでしょうが、果
して山田氏の如く「戦争責任者
の重大な責任、戦後の生き方
は、何よりもまずこの責任を負
つべき」と言つて責任精神を
身ももって負ひ表現行動をして
居る歌人は幾人あるだろうか。

多くの人は文学として趣味と
して、自らの優越心を充たして
居る歌人は幾人あるだろうか。
短歌は文学である「短歌は
よすがですが、私の期待するこ
ろは労働者が(作家表現を持た

中尾 種夫

な(者も)短歌を、その生活の
前衛的な武器として認識してい
た。短歌は労働生活者のもつとも
前衛的な武器であると言いつつ
であります。私は戦後の大半田
の歴史のなかで生活して来まし
たが、幸ひ多くの労働者を友人
にもつて居る。大半田の
労働者の負う傷みを自分の肌
に感じています。その大半田の傷
みをかかなくては、広島の沖繩
のベトナムの傷みを強く実感で
きて居ると言つては幸せと言
つてよいか知れませぬ。

短歌は労働生活者の前衛的武
器であると書きましたが、若し
短歌が私たちのための文学であ
り、趣味であるとしたら、あえ
て私達は短歌を自己表現として
えらぶ必要はないのではあるま
いかと思ひます。かつて石川啄
木は文学者としては偉大な功績
をわれわれに残してくれました
が、生活者としては失格者であ
ったと思ひます。まず私達は文
学者としての栄光より、労働生
活者としての重大性を考えた
と思ひます。短歌を趣味として
もてあそぶほど馬鹿でいいもの
はありませぬ。趣味なむもつと
面白く興味がいづらぬもので
面白く興味がいづらぬもので
面白く興味がいづらぬもので

短歌は文学と趣味である以前
に「生活者の心情」であること
を私はこの強く言つておきた
と思ひます。山田あき氏は文
学である前に短歌表現の必然性
を言つて居ますが、今日短歌作
者が五万と居るのでしょうが、果
して山田氏の如く「戦争責任者
の重大な責任、戦後の生き方
は、何よりもまずこの責任を負
つべき」と言つて責任精神を
身ももって負ひ表現行動をして
居る歌人は幾人あるだろうか。

多くの人は文学として趣味と
して、自らの優越心を充たして
居る歌人は幾人あるだろうか。
短歌は文学である「短歌は
よすがですが、私の期待するこ
ろは労働者が(作家表現を持た

生命守る闘いこそ 労働者を変える力

「三池の闘い」演じた東武から便り



東武の仲間たちが文化祭で演じた「三池の闘い」の一場面

合唱劇「三池の闘い」は、その足跡を残した各地に三池の火、働く者の文化の火、いのちの火を燃やせがらされて居ります。ここにこの劇の自主公演に成功した東武労組からお知らせしたのも、この「三池の闘い」の便りをお知らせします。

十一月二十六日、第十九回東武の文化祭において、社青同東武班連絡協議会と、まなぶ友の会は合唱劇「三池の闘い」を演じました。

昭和三十五年の闘いの中から長期抵抗路線を生みだした三池労働者を、われわれの手をなつて「三池の闘い」を演じた。五月の三重塚闘争の構図に「三池の闘い」の文化活動としての取り組みでした。

東武交通労働組合
河井勝久さん

随想

商家に嫁いでいた姉が、あの頃私に会って「恵子さんは、女だての毎日鉢巻をして居るで、仇討のようだね」と、皮肉を言った。その時、私は「鉢巻は、女の宿命だ」と、皮肉を返した。

時組活動家として生長しつつあり、水色、桃色の花を求めた。夫に会って「恵子さんは、女だての毎日鉢巻をして居るで、仇討のようだね」と、皮肉を言った。その時、私は「鉢巻は、女の宿命だ」と、皮肉を返した。

「花と鉢巻」

港務 柿坂 敏

「あなた、今日の私をみてくださったでしょう。赤い夕映の東門で、ミニスカートの上で、マイク片手に、あなたが話してくれた南の島の炎の花のように烈々ともえたい。花と鉢巻は、女の宿命だ」と、皮肉を返した。

「三池の闘い」の闘いは、労働者を変える力。生命を守る闘いこそ、労働者を変える力。東武交通労働組合の仲間たちが文化祭で演じた「三池の闘い」の一場面。合唱劇「三池の闘い」は、その足跡を残した各地に三池の火、働く者の文化の火、いのちの火を燃やせがらされて居ります。ここにこの劇の自主公演に成功した東武労組からお知らせしたのも、この「三池の闘い」の便りをお知らせします。